

◇ 模擬講義のテーマ ◇

「男性ホルモンの多い女性は「女子」の種目で競技できないのか？—DSD 規定をめぐって—」

◇ 《設問 1》（模擬講義の要点整理）の解答例 ◇

人間の性は多様であるにもかかわらず、スポーツにおいては、種目を男女に分ける性別二元制が採用されている。特に国際レベルのスポーツ競技においては、公平性を守るために、女性選手を対象とした性別確認検査が行なわれてきた。現在では DSD の女性選手を対象とした DSD 規定がある。この規定をめぐって、国際陸上競技連盟とキャスター・セメンヤが裁判で争っており、女子種目における公平性とセメンヤの人権が衝突している。（199 字）

※キーワード

性の多様性／多様な性、性別二元制、性別確認検査、DSD 規定、キャスター・セメンヤ、公平性、ありのままの身体（身体の権利、セメンヤの人権）

◇ 《設問 2》の論題と評価の視点 ◇

〔論題〕

あなたが欧州人権裁判所の裁判官ならどのような判決を下しますか？結論と理由を 600 字以内にまとめてください。

〔評価の視点〕

- ・結論は、DSD 規定を停止する（セメンヤの訴えを認める）か、停止しない（訴えを認めない）かに大別されます。どちらの結論であっても、その結論に整合的な理由が論理的に記述されているかどうかを評価します。結論がどちらでもない場合（例えば、判決を留保した場合など）は、結論の妥当性に応じて、減点をします。
- ・DSD 規定に対する賛否の両論についての言及を求めます（セメンヤの訴えを認める立場は、セメンヤがありのままの身体で競技できないことの不当性を重視し、認めない立場は、女子種目の公平性を重視する解答になることが予想されます）。両論が比較検討されている場合は、得点率 60%を標準として加点・減点を行います。
- ・一方の立場からしか論じていない場合は得点率 40%を基準として加点・減点を行います。